

秋丸健一郎

前例を創る



市民の声にしっかり耳を傾け、いいことも、悪いことも、ちゃんと市民に説明する。

与えられた時間の中で、思いを持って全力で取り組み、きちんと結果を出す。

今、何が必要で、何ができるのか、時代・環境・技術の変化に柔軟に対応できる。

特定の誰かの利益のためでなく、市民のために動く。

そんな政治を、誰かがやってくれれば、私はそれを支える側で良かった。

けれども、誰もいなければ、自分でやるしかない。

政治家になるのは、目的ではなく、手段。もっと広く市民の役に立ちたい。その思いを実現するためには、この手段しかないと退路を断ち、決断。

政治は一票では変わらない。

けれどもその一票でしか変えられない。

投票しない人の意見に耳を傾けられることはない。

市長選挙、市議会議員選挙の投票率は約6割。4割の人が関心がない。

「誰がやっても同じ。」

私は言いたい。

「そんなことはありません」

今、これを読んでくださっているあなたは、霧島市はもっといい街に、もっと住みやすい街になってほしい、そう考えているはずです。

市民の声を窓口で聞き続け、市役所を中から見ていた、私だからできることがあります。

あなたの声をもとに、前例を創る。
あなたの夢のために、私は頑張ります。



01 手続きをする役所から、専門職を配置した コミュニティ活動拠点へ

技術の進歩により、手続きのために市役所に行く時代の終わりが見えてつあります。これからの市役所のあり方とは、市民・地域が困った時に一緒に考える、地域の活動を真摯に支える、そういうものになるべきだと考えています。中学校区を目安とした日常生活圏域ごとに、総合支所や公民館などを、保健・福祉・防災などの専門職を配置したコミュニティ活動を支える拠点に変え、互助活動を活性化します。

自治会長のGさんとのお話から生まれました。

『**深**』
地域の絆

02 市民税の1%を使った市民提案型事業

市民が納めた税金が霧島市のために役立っている、もっと税を身近に感じてもらうために、市民税の1%(約5000万)を使って、地域課題の解決等に向けた公益性のある事業を市民が提案し、どの事業を実施するかも市民が審査に加わるような市民提案型事業を実施します。

秋丸が温めていました。

『**進**』
動く行政

つなぐ、とどく、かがやく。 『**心**』・キラシマ

03 新型コロナウイルス感染症予防対策～「密」から「散」へ～ 正しい情報を速く、わかりやすく伝える。偏見や差別を防ぐ。そして、これまで進めてきた経済的対策等に加え、次のような施策に取り組みます。

飲食店等の混雑回避にICT活用

経済活動と感染対策を両立するためには、混んでいるのか、空いているのかといった情報の可視化が必要です。ICTを活用して、店舗の混雑具合の把握や、追跡のための来店管理を可能とするインフラ構築を目指します。

ICTとは「Information and Communication Technology」(インフォメーション・アンド・コミュニケーション・テクノロジー)の略です。意味は「情報通信技術」。ICTとは簡単に言うと、SNS上でのやり取りやメールでのコミュニケーション、オンラインショッピング等、人同士のコミュニケーションを手助けしたり、「IT技術を使ってどのように人々の暮らしを豊かにしていくか」という活用方法に関する考え方です。

配達・移動販売ネットワークの構築と地域ごとのファーマーズマーケットの整備

人が集まるのを避けるために、人を動かすのではなく、配達や移動販売などの物を動かす仕組みを、地元の力で構築します。また、地元で消費する農産物を地元農家が提供できるようなファーマーズマーケットの仕組みづくりを目指します。

ファーマーズマーケット (Farmer's Market) とは、主にその地域の生産者農家が複数軒集まって、自分の農場でつくった農産物を持ち寄り、消費者に直接販売するスタイルの市場である。本来ならば「生産者自らが店先で販売する」という形態をもってファーマーズマーケットと称されるが、直売所に過ぎないものであるに関わらず、ファーマーズマーケットと銘打っている場合も見受けられる。

相談機関のインターネットの積極活用

人との接触が減ることで孤独感、先の見えない未来に対する不安感、こういった相談のために足を運ぶのは心理的なハードルが高いです。チャットやテレビ会議等インターネットを活用した相談窓口を設置します。

インターネットは、世界中のコンピュータなどの情報機器を接続するネットワークです。チャット(chat)は、インターネットでよく利用されるサービスのひとつで、本来は「おしゃべり」という意味の言葉です。インターネットでは、複数の利用者がリアルタイムにメッセージを送信するためのシステムをチャットと呼びます。

manifestoの一部を第一次manifestoとして先行公開します。私が考えを温めていたものや、政治活動中にお会いした方からのお話をもとに作成しました。正式なmanifestoは、またあらためて公開いたします。それまでまだ時間がございます。ぜひ、みなさまのお声をお聞かせください。裏面の各種連絡先にお寄せいただくか、直接お伺いもいたします。 **あなたの声を私のmanifestoに!**

第一次manifesto公開

『**芯**』
地域経済

秋丸が温めていました。

『**深**』
地域の絆

Fさんとのお話から生まれました。

『**心**』
保健福祉

秋丸が温めていました。

04 運転寿命延伸プロジェクト

霧島市は車無しでの生活は難しいものがあります。交通手段のない方への政策も必要ですが、年齢を重ねても運転技術が衰えないような予防的な取り組みも重要です。自動運転技術が実用化されるまでの間、介護予防教室の一環として、地元の教習所に協力をもらい運転寿命延伸のための取り組みを行います。

福祉施設のHさんとのお話から生まれました。

『**心**』
保健福祉

05 中学校給食を無償化

子育てに関して負担と感ずることは各家庭において様々ですが一番共通することは経済的な負担です。給食無償化の試算をしたところ、小学校を対象で約3億5千万円、中学校を対象で約2億円が必要となります。3号認定(0歳から2歳)の保育料無償化は3～4億円が必要です。できるだけ多くの家庭が対象となる支援として、責任を持ってmanifestoに載せられるのは、中学校給食の無償化であると考えました。そうすれば、今は小さい子供たちも対象とすることができます。

元PTA会長のFさんとのお話から生まれました。

『**伸**』
保育・教育



秋丸健一郎

あきまる・けんいちろう

年齢：48歳
 昭和48年1月15日生
 血液型：O型

家族：国分新町在住

母(80歳)妻、子(中3、小2)、猫4匹、犬1匹

出身：隼人町神宮

曾祖父は、鹿兒島神宮の神職(祝大夫)

祖父篤は、教員(上小川小学校長ほか、宮内小、牧園小、富隈小に勤務)

父五郎は、秋丸建築設計事務所代表

趣味：バンド活動(英国ロック等)、サッカー観戦
(鹿児島ユナイテッドFC)大ファン

好きな言葉：「ハングリーであれ、愚かであれ」
(スティーブ・ジョブズ 元アップル CEO)

「命もいらず、名もいらず、官位も金も
 いらぬ人は、仕末に困るものなり。
 この仕末に困る人ならでは、艱難を共に
 して国家の大業は成し得られぬなり」
(西郷南洲翁遺訓)

経歴：宮内幼稚園 鹿兒島市立大龍小学校
 ラ・サール中学校 ラ・サール高等学校
 鹿兒島大学法文学部法学科 卒
 令和3年3月/霧島市役所退職 在職23年
 保健・福祉14年2ヶ月 税務6年10ヶ月
 農業委員会2年



あなたの声を私のマニフェストに！

ご意見を公式 LINE アカウントから
 お寄せください。(メール、各 SNS でも可)

公式ホームページ

秋丸.com

E-mail: k16.akimaru@gmail.com



メッセージ動画



どこで撮ったかわかりますか？



秋丸健一郎後援会
 〒899-5106
 霧島市隼人町内山田1丁目3-41
 TEL/ 0995-40-9072